



学校教育目標 「ひと」とともに生きる生徒の育成



植竹の息吹き

令和八年
文月
第4号

「自律」「敬愛」「進取」の気概溢れる我らが学び舎
チーム植竹の創造

さいたま市立植竹中学校
さいたま市北区土呂町352
〒331-0804
TEL 048-663-2115
FAX 048-665-6377



NO LIMIT, OUR LIFE! ~無限の可能性~

校長 玉崎 芳行

夏至も近い夕暮れ刻、体育祭でのチーム植竹の滾るエネルギーを昇華させたグラウンドが、いつもの顔に戻っていた。3年生体育委員の華麗な旗演舞、圧巻の植中ソーラン、そして渾身の校歌熱唱…

日中のあの興奮も雄叫びも感動も、まるで何事もなかったかのように静寂に包まれていた。そこに、54名の体育委員が最後の総括を行っていた。私は、少し距離を置き、“同志”の背後で直立傾聴した。1・2年の学年代表と3年正副委員長が、それぞれの体育祭への思いをそれぞれの言葉で表明した。“先輩の思いをしっかりと受け継ぎたい” “体育祭を、体育祭で終わらせない。今日、得たものを、明日からに活かしたい。” “今日の体育祭は、今までの積み重ねがあつての今日であることを忘れないでいたい。” “自分たちの課題が見つかったので、これからの学校生活などを通して改善していきたい。”

翠煌の疲れが心地よい火曜日の朝、登校するチーム植竹の“同志”に、体育祭の所感を尋ねた。ある2年生の言葉に、心打たれた。“最初は、順位が気になったけど、終わってみたら、もっと大事なものをクラスみんなでつかんだ気がしました。” “去年とは、全く違う体育祭でした。自分からのめり込んで、みんなと力を合わせ、とにかく楽しかったです。”

放課後、部活動に励む1年生に、初めての体育祭の感想を求めた。“とにかく、先輩がすごかったです!!” “3年生のリーダーシップって、めっちゃカッコ良かったです。” “私たちも、先輩みたいにになりたいです。”

開会式で、私は想いを次のようにあなたに伝えた。『…運動が好きな人、苦手な人 声の大きな人、小さな人、走ることが得意な人、そうでない人、色々な人が居ての体育祭、それでいい。それがいい。自らができることの精一杯を出し尽くす、そこに体育祭の尊さがあるのではないのでしょうか。最後に、お願いが一つあります。閉会式の時に、互いを笑顔で称え合える、晴れ晴れとした清々しい気持ちに、ここにいる誰もがなっている体育祭を創ってください。体育祭が終わった後、満ち足りた優しく温かい空気に包まれながら、仲間とともに真っ赤に日焼けしたあなたの満面の笑みに溢れるクラス写真がどの教室にも、新たに飾られるであろうこと、私は確信しています。…』

各教室に、無限の可能性を秘めたチーム植竹の底力が込められた写真が誇らしげに掲げられる日を、心待ちにしているのは、私だけでは、ないだろう。また、今日も、チーム植竹が好きになってしまった。